

#### ① 名古屋市における鳥類の概況

新たなレッドリスト名古屋2020、鳥類部門に関しては、レッドリスト名古屋2015からのデータ変更は行いません。変更がない主な理由として以下の2点を考慮したため、改定内容へ反映させるだけのデータおよびコンセンサスが整っているという結論に達しなかったためです。

- 1) 環境省が示す「定量的要件」を考慮する
- 2) 市民からの意見を考慮する

今後も、これまでの「定性的判定」に加え上記2点を加え、総合的に判断していく予定です。

次にその詳細を記載します。

- 1) 環境省が示す「定量的要件」

環境省レッドリストに関する判定基準は、今後以下の引用にある基準に基づき判定を進めていく旨が記載されている（環境省レッドリストカテゴリーと判定基準(2019)、以下引用）

“2001年にIUCN（国際自然保護連合）が新たな数値基準を採用した「IUCN レッドリストカテゴリーと基準」\*1を発行したことを受けて、第3次レッドリスト作成時にカテゴリーの判定基準の一部変更を行い、第4次レッドリストやレッドリスト2015作成時も同様の判定基準を用いた。今回の見直しにおいても第4次レッドリストの判定基準を踏襲して、各対象種の評価を実施した。判定基準の詳細については、次ページ以降に示すとおりである。

また、数値基準による評価が可能となるようなデータが得られない種も多いことから、第4次リストで用いてきたものと同様に、「定性的要件」と「定量的要件(数値基準)」を併用するが、原則として、随時見直しを行う種については、「定量的要件」を適用することとした。なお、「定性的要件」と「定量的要件」は、必ずしも厳密な対応関係にあるわけではないが、現時点では併用が最善との結論に至ったものである。 “

名古屋市版レッドリスト2015改定にあたっては、定量的判定をできるだけ取り入れ解析を行う事としました。このため月別、年度別個体数変化を統計処理し、より客観的な指標を用い判定していただけるようにしました。詳細な統計解析は、名古屋市緑政土木局 名古屋市野鳥観察館 指定管理者東海・稲永ネットワーク（森井 豊久、他メンバー）、野鳥の会 愛知県支部からのデータを利用したもので、この場を借りて厚く感謝致します。

- 2) パブリックコメント、市民からの意見

環境の変動や環境変化について関心を持つ市民の数は近年明らかに増加している。実際に本件に関連する専門家による市民報告会でも多くの方々から多様な意見が寄せられている。そこ

で名古屋市におけるレッドデータブック鳥類改定では、名古屋市広報による市民意見の募集に加え、担当者自身が意見交換会を設け、意見集約を行う体制とした。

## ② 名古屋レッドリスト概要と定量的解析について

名古屋市版レッドリスト2020と国リストとを改めて比較した(表1)。名古屋市、国における絶滅危惧種が占める割合は、17.7%、21.6%(目録記載数を分母とする)となった。このことから名古屋市においても、国においてもこれまでの記録種の約2割の種が絶滅の淵にあるといえる。ところが新たに定量的な解析を進めてみると、記録数が多い鳥類(例えばカルガモ)においても個体数の大きな減少が観察されるものがみられた。当然年ごとの変動を考慮する必要があるため、早急な結論は出せないが、引き続き注意深くモニタリングしていく必要がある。

表1 名古屋版レッドリスト2020、国レッドリスト(鳥類)の比較

カテゴリー	基本概念(環境省 レッドリスト資料より)	名古屋市リスト	国リスト
絶滅(EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	0	15
野生絶滅(EW)	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種	0	1
絶滅危惧I類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	9(2+7)	54(23+31)
	絶滅危惧IA類(CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	2	23
	絶滅危惧IB類(EN) IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	7	31
絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危険が増大している種	15	43
準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	21	21
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種	3	17
地域個体群(LP)	絶滅のおそれのある地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	0	2集団
	合計	48	151(+2集団)

参考：名古屋市鳥類目録記載数 272種、国約700種。(参考：日本鳥類目録 第7版 633種)

## ③ 名古屋市における新たな重点モニタリング地点の設定

次に意見交換会等で取り上げた話題の一つにコアジサシ(VU)に関する問題があった。コアジサシは、大規模な営巣コロニーが名古屋市内で確認できる稀有な鳥であったが、2014年前後を境にその営巣地が消失したという経緯がある。このような場合、あらかじめ重点モニタリング地点と考え、十分な個体数が確認できるか、繁殖が見られるのか等を常時モニタリングする

べきである。もし重点モニタリング地点の消滅が見られた場合、速やかにカテゴリー順位改定等の変更を行う必要があるか否かの検討に入るべきだと考える。

最後に名古屋市版レッドリスト2015年改訂まで長い間名古屋市レッドデータのとりまとめに尽力された小笠原昭夫先生が永眠されたこと、この場を借りてお悔やみ申し上げたいと思います。